

脂肪吸引前後におけるヘモグロビンの変化についての考察と提案

竹田 啓介

Keisuke Takeda

湘南美容クリニック 横浜院

【目的】

脂肪吸引における合併症として貧血は重要である。今回、我々は脂肪吸引における周術期パラメータと貧血の相関性について後方視的に調査した。

【方法・対象】

2017年5月から2017年9月において当院にて脂肪吸引を行なった男女50名（男性1名、女性49名）に対して、脂肪吸引の部位、術前BMI、手術時間、脂肪採取量および術前後の血中ヘモグロビン値（Hb）およびその変化量を調査した。手術部位別においてHb減少を手術時間で除し1000倍した係数R（Hb）を算出し比較した。手術前後における脂肪採取量、術前BMI、手術時間とHb減少量においてそれぞれ相関性を検討した。

【結果】

男性1名、女性49名、平均年齢37.4歳（20-60歳）であった。腹部18例、腹部+上腕3例、大腿12例、下半身7例、上腕7例、下腿1例、上背部2例であった。術前平均Hbは13.3（標準偏差1.0）に対して術後Hb11.4（標準偏差1.4）と優位にHbの減少を認めた（ $p < 0.001$, t検定）。R（Hb）は、腹部および大腿を含む下半身の脂肪吸引において、それぞれ20以上と高値を示した。脂肪採取量とHb減少量は優位に相関性を認めた（ $R^2 = 0.88$ ）。一方、術前BMIおよび手術時間とHb減少量に対して優位な相関を認めなかった。

【考察】

腹部および大腿部を含む脂肪吸引では手術時間に関わらず、脂肪採取量が多くなるためHbの減少量が優位に高値となった。脂肪吸引におけるHbへの影響は脂肪吸引量に純粹に影響することが示唆された。